



岩井 幸也さん(78)
廣子さん(76)
中田町・新町
1964(昭和39)年11月入籍

好き嫌いなしで食べるのが一番

★二人のなれ初めは
【廣子】出会いは高校の時だね。
【幸也】卒業して、私は地元で警察職員、女房は神奈川県川崎市で働いてたの。給料出たら、東京遊びに行つてさ。何回か通っているうちに、結婚に向けてわすかず進んだんだね。
★お互いの第一印象は
【幸也】妹みたいな感じだったね。
【廣子】印象は薄かったよ(笑)。
★結婚当時の思い出は
【二人】子どもが小さい頃は、毎年、家族旅行したね。近所の中では、一番旅行しているかも。
★お互いの性格は
【幸也】きっちりした性格。世話好きでもあるね。
【廣子】頑固者。警察職員だったからかな、ルールに厳しいの。
★夫婦円満のコツは
【幸也】何でも好き嫌いなしで食うのが円満の秘訣がな。
【廣子】褒め言葉もないけど、「うまぐね」って言う割に器がきれいになってるの(笑)。ちゃんと食べてくれるっていうのは、うれしいことだね。
★これからしたいことは
【二人】一緒に過ごす時間をもっと持ちたいね。これから、お互いにお世話したり、されたりの覚悟はしてるけど、今の状態がこのまま続いてくれると最高だね。

One's Home

ふるさとへの思い

Monthly Hot Communication

「ふるさとを 見つめ直す」

私は、中田町上沼大泉にある機関場のすぐそばで生まれました。季節になると、機関場からモーターの回転音が聞こえてきます。大人でもかがめば入れる大きさの鉄管から、北上川から引いた水が勢いよく吐き出されます。上沼中学校に置いてあった、北上川の決壊により発見された「大泉様式弥生式土器」に、大泉の名が記されていたことを思い出します。

古里の思い出といえば、初夏には芝草の上に寝そべり、秋にはキノコ狩り、栗拾い、落ち葉拾い、川や用水堀では小魚釣り、土手では四つ葉のクローバー探し、牛やウサギの餌にする草刈りなどですが、

武澤 忠臣さん(75)

東京中田会幹事
中田町(大泉)出身



現在は帰省してもそのような情景は見かけず、子どもたちはゲームをしてばかり。コンクリートで塗り込められた用水堀では、小魚は卵を産み付ける場所がなく、世代交代ができません。山は針葉樹林が多く、山の栄養を生み出し、まきを取る雑木林は本場に少なくまりました。
自然豊かな古里を離れてから、後数年で60年になります。陸の孤島を解消するため、新幹線駅からのアクセスをさらに良くするなど、帰省したくなる何かが欲しいと思います。鷹の目、蟻の目で、もう一度古里を見直してください。
少子化で、東京中田会も若手が増えません。昔は、古里で帰省する先輩たちの話を聞くことが楽しめで、都会の情報に触れる数少ない機会でした。今では情報を収集する手段はたくさんありますが、6月2日に開催された「東京中田会平成30年度総会」では、中田中学校に図書を寄贈することが決まりました。生徒の皆さんが、将来どのような夢を抱くことができるか、東京中田会の一員としてお手伝いできれば幸いです。みんなが帰りたいくなる元気な古里になるようお祈りし、筆を置きます。

おらほの産直

農産物直売所「産直なかだ愛菜館」



「新鮮な切り花や野菜はもちろん、隣接している加工場で作られるお餅、お弁当やパンなども、できたてがお店に並びます」と話すスタッフの皆さん

今月は、農産物直売所「産直なかだ愛菜館」の志田政彦店長にお話を伺いました。
Q お勧め商品などを教えてください
切り花がお勧めです。地元の農家直送なので、新鮮で長持ちし、値段もお手頃。水に浸しておけば1週間は日持ちします。
それと、中田産のキュウリもお勧めですね。「ここに来ればキュウリ」と思って買いに来られるお客さんも多くみられます。
米も売れ筋。北上川の豊富な水と、豊かな土壌で作られる



切り花は、「お盆市」で行列ができるほどの人気商品

た中田産の米を取り扱っています。いい水で作られた米は、味もおいしいですよ。
Q これから開催されるイベントなどを教えてください
8月11〜16日に「お盆市」を開催する予定です。期間中、13日は朝6時から開店します。



新鮮なキュウリがお出迎え

毎年、切り花を買い求める人で行列ができるほどです。
また、あんこ、くるみ、ごま、納豆、エビなどのお餅も各種取りそろえています。お盆に帰省したご家族へ古里の味をお買い求めください。
【問い合わせ】農産物直売所「産直なかだ愛菜館」
☎0220(35)3050

まちの文芸 短歌

●9月号は俳句・川柳です。住所・氏名・電話番号を記入し、7月31日(火)まで応募ください。作品・氏名には全てふりがなを振ってください。
●応募者多数の場合選考して掲載します。

熱中症からぬように神頼み
茅の輪をくぐる六月の尽
庭の木に鈴成りに南高梅の実のりたり
姉に届けん故郷を添えて
引き揚げて北の大地を拓殖す
伯父の墓前で苦節称賛す
手伝いのきゅうり収穫に若返る
ハウスを出ればつい後手に
晴れた日に庭の草取る頭上にて
ホトトギス鳴き初夏にいたれり

二ノ神武志 (迫)
千葉 良子 (東和)
丸山 米子 (東和)
熊谷タヘ子 (中田)
本宮やつの (中田)

おさなき日母とあるいた里の山
有るよ有ったわ母植えし百合
生涯を契り五十年共に生活
夫に頼りし思い出尽きず
茶箱の寝具虫干すかるがるに
新紙をまとい謝しつ清し
一輪の芙蓉の花の咲きし午後
亡母の傍へと逝きし妹
眼も指も不自由なりし老い我も
着物リメイク終の学びに

石川 行子 (米山)
石崎よしの (米山)
千葉たかこ (米山)
三上久美子 (南方)
阿部 洋子 (津山)